2005
10
Vol.5

ひおき

HIOKI JOURNAL OCT.2005

HIOKI-City http://www.city.hioki.kagoshima.jp/

主な記事

特集「日置市の文化財」 …… 2
消防だより …… 8
まちの話題 …… 10
市民の広場 …… 18

今月の表紙

おじいちゃんと走る

幼稚園、小学校、中学校、地域の四つが一つになっての大運動会。大勢の地域の人に見守られて盛り上がりました。

（9/25　伊集院士橋）

鹿児島県日置市

市の人口（住民基本台帳）

総人口	53,391人（△ 1）
男	24,939人（ 4）
女	28,452人（△ 5）
世帯数	22,250（ 17）

10月1日現在（　）は前月比

市の面積 253.02㎢

№5 平成17年10月号
発　行／日置市役所
総務企画部企画課
〒899-2592
日置市伊集院町郡一丁目100番地
TEL 099（273）2111
FAX 099（273）3063
http://www.city.hioki.kagoshima.jp/
古紙配合率100%再生紙を使用しています

わが地域

美山（みやま）地区公民館（東市来地域）

歴史と伝統を生かし、新たな工房の里に

館長
東條　良明さん

薩摩焼の里として名高い美山地区は東市来地域の東南に位置しています。竹林と石垣に囲まれ、歴史に培われた集落は静かなたたずまいをみせ、四自治会に約二百七十世帯、六百六十人が暮らします。

薩摩焼四百年の伝統を誇る窯元は十四軒。美山の魅力を発信する「美山窯元祭り」は今年で20回を数え、鹿児島を代表する祭りとして県内外から約十万人が訪れます。

今年は11月3日から6日まで開催されます。

歴史と伝統ある文化の里には、薩摩焼創祖朴平意の記念碑や玉山神社、堂平窯跡など、薩摩焼四百年の歴史にまつわる数多くの史跡のほか、美山の自然に親しみ、薩摩焼の陶芸体験などが楽しめる森林体験交流センター「美山陶遊館」や、太平洋戦争の開戦時と終戦時に外務大臣を務めた東郷茂徳の生涯をテーマにした「東郷茂徳記念館」などの施設もあります。

また、子どもたちの人間性豊かな成長を見守る集落経営（社会福祉法人美山福祉会）の美山保育園も整備されています。

▲ 青壮年会が主体となって祭りの舞台づくり

地域のイベントは、美山窯元祭りをはじめ、夏祭りや文化祭、「登り窯を焚こう」など年間を通して魅力ある行事が目白押しです。窯元祭りは地域最大の行事として何度も実行委員会を重ね、多くの地域民がボランティアで活動します。夏祭りは青壮年会「むつみ会」が主体となりステージや音響も本格的なモノを自前で準備します。二月にある「登り窯を焚こう」は登り窯の前で火鉢を囲み、餅を焼いたり、ミニコンサートを開きます。どれも自分たちの地域をよくしたいという思いで公民館と地域の各種団体が連携しながら、できることに取り組んでいます。

最近では、窯元のほか木工芸やガラス工芸、はく製といった新たな工房や喫茶店などが地域に建ってきました。伝統に支えられる薩摩焼はもちろん、新たにできてきた工房とも連携しながら、美山を技と伝統が生きる「工房の里」「匠の里」にしたいという気持ちがあります。

そのために、この地に店を開いた熱意をくみ、ここに住んでよかったと思ってもらえるような環境をつくっていきたい。窯元や新しく入ってきた人たち、地域住民が一緒になって意見を交わし、共感がもてる住みやすい地域づくりを進めていきたいと思っています。

▲ 登り窯の前で火鉢を囲む

編集たいむ

今月号に登場いただいた橋口さんの作品集（平成八年発行）に寄せる家族からのことばを読むと、ご主人や当時小中学生だった子供たちから、仕事、家事、子育て、創作活動のすべてに前向きに精いっぱい生きている妻・母への思いが集約されており感動しました。今、子どもたちにもその姿がしっかりと受け継がれ、うらやましくも思います▼作品は愛情あふれるもの、生きる厳しさを表現したもの、自分への気合など幅広く、人とのかかわりのなかにある自分の生きざまが表現され思わず引き込まれ不思議と力がわいてきます▼マスターズ大会で常に上の記録を目指し挑戦し続ける石神さん。力強い視線で前を向き取材にこたえる姿は年齢を感じさせず迫力があります▼「生きる」ことに情熱をもった方々に出会うと取材中に元気を分けてもらえます。こんな人との出会いが広報マンをしていてよかったと思える唯一？のときかもしれません。自分もこんな生き方をしたい。何度思ったことか。何も変わらない自分がいます。

島津氏と日置

国指定１、県指定１１、市指定８１。これは日置市内にある指定文化財の数です。この地域が多くの文化財に恵まれているのは、多様な地形に恵まれ、それぞれの時代の生活に対応できたことがあげられます。また、陸路の要所に加え、大陸につながる東シナ海に面し、多彩な文化が入ってきたこともその要因のひとつです。

さらに大きな理由として、戦国時代後半に島津氏の大きな政変の舞台となり、それにまつわる文化財が残っていることがあげられます。

１１月の文化財保護強調週間を前に、なじみの深い「島津義弘」を中心に、文化財を紹介しながら、そのかかわりについて考えてみます。

市内の文化財が語る島津の歴史

伊集院駅前に建つ武将の銅像が島津義弘だということは、ご存じでしょう。また、県内で有数の行事である妙円寺詣りも、義弘の業績をしのんで行うものです。なぜ、義弘がこれほど取り上げられるのでしょうか。実は、義弘は、伊集院だけでなく、日置市全体と深いかかわりがあるのです。

義弘の故郷「日置」

17代、島津義弘画像（尚古集成館蔵）

義弘は島津軍の代表として各地を転戦した武将で、島津家の十七代当主とされています。あまり日置と関係がないように思われますが、日置は義弘の故郷になります。

義弘が生まれたのは、吹上の中原にある**伊作城**（本丸の**亀丸城**は県指定文化財）です。十一歳のときに、父親の島津家十五代当主貴久は、本拠地を伊作城から伊集院の**一宇治城**（現在の城山公園）に移し、そこで5年間暮らしました。義弘は、幼少期と青年時代を日置の地で暮らしたのです。その後、義弘は鹿児島に移り、九州各地で戦い、島津の勢力拡大とともに、居城を変えていきます。

忠良、義弘、義久、歳久、家久が生まれた亀丸城跡（県指定文化財、吹上地域）

戦国時代が終わった後も、朝鮮出兵と関ヶ原で先頭に立ち、戦い続けました。晩年は現在の加治木町に住み、そこで亡くなりました。義弘は生前に自分の菩提寺を伊集院の妙円寺に決め、自らの**木像**（市指定文化財）を寄贈していました。これは、最後に自分の故郷に帰りたい、という気持ちの表れだったのではないでしょうか。妙円寺は明治に廃寺となりましたが、跡地に**徳重神社**が建ち、現在でも義弘をしのび妙円寺詣りが行われます。

日置で生まれたのは、義弘だけではありません。共に戦った兄の義久、弟の歳久・家久も、同じように日置で生まれ、死後も日置とのかかわりが続きました。また、義弘の祖父、島津忠良も伊作城で生まれ、義弘の父貴久とともに、日置の地で活躍し、明治維新まで連綿と続く島津家飛躍の基礎をつくっていきます。

日置市には、そうした人々に関係する文化財が多く残っており、島津家の最盛期を支えた人々が日置の地と深いかかわりを持っていたことが分かります。

島津忠良と貴久
島津氏復興へ

義弘に大きな影響を与え、島津氏復興の基礎をつくったとされる祖父の島津忠良（一四九二～一五六八）と父親の貴久を、当地に残る文化財を交えて取り上げます。

島津氏中興の祖

島津忠良は島津家の分家の伊作島津家（現在の吹上地域南部を領有）十代当主で、義弘と同じく伊作城で生まれたとされています。表面上は一地方領主ですが、さまざまな記録でその業績は高く評価されており、「島津中興の祖」とも呼ばれています。

当時の三州（薩摩・大隅・日向）は、島津本家の力が衰え、各地の領主は勝手に争いを起こし、大きく乱れていました。本家十四代当主島津勝久（当時は忠兼、後に改名）は、有力な分家の島津実久に圧倒され、当主の地位を脅かされていました。対抗策として、勝久は忠良と手を結びました。勝久は、忠良の息子貴久（一五一四～一五七一）を養子に迎え、本家当主の地位を譲り（一五二六年）、伊作城に移りました。

伊作城跡想像復元図（三木靖氏監修）

反発した実久は、武力で勢力を広げて鹿児島を抑え、貴久に対して強硬に本家当主の地位の返還を求めました。貴久はやむなく鹿児島から引き上げることになったのです。

伊作城にいた勝久は実久と手を結んで鹿児島に戻り、本家当主に復帰しました。忠良は勝久側の武将が引き続き占拠していた伊作城を攻め、奪還しました。この後から、忠良・貴久は伊作城を拠点に実久と戦うことになります。

当初は実久に圧倒されていた忠良も、次第に反撃に転じます。一五三三年、実久に味方していた桑波田氏の拠点**南郷城**（吹上地域・市指定文化財）を攻め落とし、日置南郷（吹上地域北部）を平定しました。続いて、現在の日吉地域と伊集院を攻め、一五三六年には一宇治城を占拠します。こうした抗争のさなかの一五三五年に義弘が伊作城で誕生します。

十五代、島津貴久画像（尚古集成館蔵）

一五三七年には犬迫（鹿児島市）で実久と直接対決、勝利を収め鹿児島も占拠しました。翌年には、実久の重要な拠点であった加世田城も攻め落とし、その後のいくつかの戦いを経て、実久の勢力を薩摩半島南部から一掃しました。東市来地域に残る**市来鶴丸城**（市指定文化財）では、実久勢との最後の戦いがありました。

こうして忠良・貴久親子は薩摩では最大の勢力になりました。勝久はすでに鹿児島から逃亡しており、貴久は名実ともに島津本家の当主に返り咲きました。その後の一五四五年に本拠地を一宇治城に移しました。

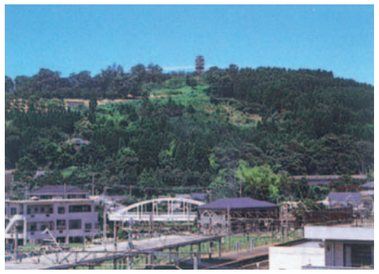
貴久は、一五四九年に一宇治城でフランシスコ・ザビエルと会見したとされています。ザビエルは市来鶴丸城にも訪問しています。海に面し、他の地域との交流が盛んであったことの証明でしょう。

忠良は政治の実権を貴久に譲り、加世田に身を引きました。貴久と、息子の義弘たちは三州統一へと進んでいきます。

（右）島津忠良肖像（吹上歴史民俗資料館蔵）

（左）伊作島津家の菩提寺で歴代当主の墓がある多宝寺跡（吹上地域）

一宇治城復元模型



一宇治城跡全景（伊集院地域）

伊集院歴史を語る会
会長　池田英俊さん（伊集院町妙円寺）

公民館講座の郷土史講座で学んだ受講生が一緒になって、講座修了後に自主的に活動しようと平成11年に結成しました。

現在、会員は32人（うち９人が女性）。毎月第１火曜日の午前中、伊集院地域活性化支援センターで例会を開いています。会員が交代で学習成果を発表しますが、伊集院だけでなく、他の地域も取り上げています。

また、旧伊集院町から補助を受けて、会独自の妙円寺詣りのリーフレットも作成し、配布しています。

合併を機に、他の地域の団体とも交流を進めていきたいです。

市文化財保護審議会委員
県文化財保護指導委員
楠生恭二さん（東市来町養母）

県外から帰郷して、趣味のビデオ撮影で郷土芸能や史跡を撮影するうちに、郷土の歴史に興味を持つようになりました。県文化財保護指導員の立場で、串木野・市来・東市来の保護に努めています。こうした活動を通じ、地域をつくった先人への感謝の思いを強く持つようになりました。東市来の郷土史講座の講師もさせていただいています。

先人の遺産である文化財に多くの人が興味を持ってもらえるように、分かりやすい内容と資料づくりを心がけています。日置市になって広くなったことで、地域の文化財に目が届かなくなることがないように、さらに詳細な調査を行っていきます。

義弘と兄弟の活躍
三州統一から九州制覇へ

島津貴久の息子、義久・義弘・歳久・家久兄弟は、伊作城で生まれました。その後、伊集院の一宇治城に移り、幼いころを日置で過ごしました。彼らは島津家の悲願であった三州統一を果たし、九州の大部分を占領しました。島津家七百年の歴史の中でその勢力が最大になった時でした。

三州統一へ

四兄弟の父親貴久のころ、島津本家は薩摩では最大の勢力でした。しかし、薩摩の北部や大隅には、貴久に従わない豪族が多く残っていました。豪族たちとの争いは一五五〇年ごろから本格的に始まり、貴久と四兄弟は各地で戦い、多くの犠牲を払いながらも勝利を重ねていきました。三州統一を目前にした一五七一年に、貴久は五十八歳で病死します。

その跡を長男の義久が継ぎ、十六代当主になりました。弟の義弘・歳久・家久は三州統一や九州制覇の第一線で戦い続けました。

一五七二年、日向の伊東氏が島津領地に攻め入ってきました。義弘は、木崎原（宮崎県えびの市）に集結していた敵を奇襲、勝利を収めました。兵の数は伊東勢三千、島津勢三百だったとも伝えられています。多くの将兵を失った伊東氏は、弱体化していきます。

また、大隅で抵抗を続けていた肝属氏も一五七四年に降伏し、島津氏は名実ともに三州を支配することになるのです。

歳久の墓がある大乗寺跡（日吉地域）

九州制覇へ

戦国時代末期（十六世紀後半）の九州は島津、大友、龍造寺の三氏が大勢力として争っていました。

三州を固めた島津氏は伊東氏の本拠地である佐土原城を攻め落とします。伊東氏の要請で、豊後国の大友宗麟が島津に戦を仕掛けてきました。島津勢は義弘や家久の活躍で、大友勢を高城（宮崎県児湯郡木城町）近くの耳川まで追いつめ、勝利を収めました。（一五七八年）この耳川の戦いで大友氏の勢力は弱っていきます。

一五八二年には、肥前国の龍造寺隆信と島原で戦います。家久が率いる先発隊三千人が、龍造寺六万人と対決、これを撃破して、当主の隆信を討ち取りました。この一戦で龍造寺は降伏しました。

結果だけみれば大友氏も龍造寺氏も弱いように思えます。しかし、いずれも戦国時代に武力で勢力を拡大した大名ですから、島津氏の強さが特筆されるべきでしょう。

豊臣秀吉と島津

九州のほとんどを支配した島津氏が、大友氏を攻めている最中に、豊臣秀吉が仲裁に入ってきます。島津氏はこれを拒否し、秀吉と戦うことになりますが、秀吉の圧倒的な勢力に降伏せざるを得ませんでした。

薩摩と大隅、日向の一部の領有は許されましたが、降伏の直後に家久が急死。歳久は秀吉に反抗的な態度をとり続けたため、自害に追い込まれました。家久の墓は吹上地域の**梅天寺跡**（市指定文化財）、歳久の墓は日吉地域の**大乗寺跡**（市指定文化財）にあります。

家久の墓がある梅天寺跡（吹上地域永吉）

薩摩焼の誕生

豊臣政権に入った島津氏は、秀吉の命令で朝鮮出兵に参戦します。全体としては負け戦でしたが、島津は多数の敵を打ち破り、大陸まで武名をとどろかせました。義弘は、この戦いで朝鮮の陶工を連れ帰りました。陶工たちの多くが、苗代川（現在の東市来地域の美山）に住みつき、苗代川は薩摩焼の源流になりました。美山にある古い**窯跡四基**が市の文化財に指定されています。その中の**堂平窯跡**は、発掘調査が行われ、苗代川の初期の様子が分かる貴重な資料です。

堂平窯跡（1620年ころに開窯、東市来地域）

●日置市文化財保護審議会

文化財の保存および活用を適正に行うため調査・審議し、郷土文化の向上に資することを目的として、文化財保護審議会が設置されています。８月17日に日置市中央公民館において第１回日置市文化財保護審議会が開催され、４地域（旧町）からそれぞれ２人ずつの８人に辞令交付が行われました。

委員は次の方々です。（敬称略）

二渡恒久（会長・伊集院）、佐土原伸也（副会長・吹上）、楠生恭二（東市来）、福山喜久雄（東市来）、帖佐秀人（伊集院）、大迫一弘（日吉）、原時重（日吉）、川元茂信（吹上）

第１回審議会では、「本市の指定文化財の状況」や「本年度の文化財事業計画（各地域の埋蔵文化財発掘調査計画等）」、現場研修として日吉地域の吉利古城遺跡埋蔵文化財発掘現場の視察を行いました。

関ヶ原合戦とその後

豊臣秀吉が死去したことで、徳川家康と石田三成が争うようになり、ついに両者が関ヶ原で激突します。（一六〇〇年）徳川勢が七万五千、石田勢十万とも伝えられています。大阪にいた義弘は、石田三成率いる西軍に千五百人を従えて参戦しました。

関ヶ原合戦の結果は西軍の大敗でした。西軍は総崩れで敗走し、島津軍だけが戦場に残されます。敵に囲まれた義弘は、敵中突破という前代未聞の行動にでました。激しい戦いの末、多くの兵を失いながらも敵の包囲を突破し、戦場から脱出したのです。

この関ヶ原合戦という歴史的な背景から岐阜県関ヶ原町・滋賀県多賀町と伊集院地域の交流が続いています。

豊久の最期

関ヶ原合戦のとき、島津義弘の副将だったのが甥の豊久でした。豊久は四兄弟の末弟家久の息子でした。龍造寺と戦った島原の合戦で初陣を飾り、朝鮮出兵では義弘に従って戦いました。

豊久は関ヶ原で戦死を決意した義弘に帰国を進言、敵中突破では最後尾で応戦し、壮絶に果てたとされています。しかし、その最期に関してははっきりした記録はありませんが、岐阜県上石津町では、豊久は深手を負いながらも戦場を脱出し、上石津で自刃したとされています。上石津町には豊久の位牌や墓が残っており、現在も大事に守られています。吹上地域と上石津町は、その縁でさまざまな交流を進めています。

永吉島津家の菩提寺「天昌寺跡」歴代の当主がねむる（吹上地域永吉）

それからの島津

関ヶ原合戦の後、西軍に参加した大名のほとんどはつぶされるか、領地を大幅に削られていきます。そんな中、島津氏は徳川氏と粘り強く交渉を重ね、罪に問われることなく、ほとんどの領地を維持しました。義久は一六一一年に七十九歳で、義弘は一六一九年に八十五歳で死去しました。島津家当主は義弘の息子家久が継ぎ、幕末まで続く薩摩藩が成立しました。

豊久の家臣は永吉（吹上地域北部一帯）に移り、豊久の養子を迎える形で新しい当主を得て、永吉島津家を興しました。家久は梅天寺に、豊久は**天昌寺**（市指定文化財）にまつられました。歳久の子孫は現在の日吉地域日置地区一帯の領主となり、日置島津家と呼ばれました。両家とも薩摩藩の要職を務め明治維新まで続きます。歳久も家久も、故郷に帰ってきたと言えるのではないでしょうか。

おわりに

三州を実質的に制覇し、薩摩藩の基礎を築いたのは、日置で生まれ育った人々だったと言えるでしょう。歴史に「もしも」はありませんが、義弘ら四兄弟がいなければ、薩摩藩の形もかなり変わったものになったかもしれません。

こうした歴史の大きな流れの源流は日置で育まれたのです。そのことを教えてくれる文化財は地域の貴重な財産です。歴史や文化の正しい理解のために不可欠なものであり、将来の発展の基礎になり、私たちの歴史なのです。こうして過去から伝えられてきたものを、守ることが、地域への愛着と誇りを育むことにつながります。

【引用参考文献】
『薩摩島津氏』三木靖　『島津義久』筑波常治　『島津義弘の全て』三木靖　『鹿児島県の地名』平凡社　『東市来町郷土誌』東市来教育委員会　『伊集院町誌』伊集院町　『日吉町郷土史』日吉町　『吹上郷土誌』吹上町

日吉町史談会
会長　久米文雄さん（日吉町日置）

史談会は毎月１回開催。会員制ではないので、どなたでも自由に参加できます。毎回15人ほどが参加しますが、女性が10人を超えます。

希望者が持ち回りで発表、内容は日吉の歴史が中心ですが、全国の城を研究して発表される方もいます。年２回の研修視察は楽しみな行事です。

私は昭和53年から日吉町文化財保護審議会会長として文化財の保護と活用に努めてきました。現在も公民館講座の郷土史講座や高齢者学級での郷土史学習の講師をします。

91歳になりますが、まだまだ文化財研究に対する情熱は衰えません。

南郷会
会長　佐土原伸也さん（吹上町永吉）

昔からの伝統や行事を大切にし、郷土愛を育てながら地域振興を図る、郷土の文化遺産を守っていくといった活動に取り組んでいる地元永吉の団体で、その存在は古く、昭和20年代から。現在、94人の会員がいます。

主な活動としては、建国記念日の剣道大会、天昌寺跡や梅天寺跡を中心に地域の史跡の清掃など。妙円寺詣りの武者行列にも古くから参加。関ヶ原合戦400年を記念して始まった島津豊久公顕彰事業の「天昌寺祭り」と日程が重なることもあり、ここ数年は会としては参加していませんが、今年は参拝する予定です。地元には貴重な文化財がまだ数多く残る。こうした文化財の整備にも活動の手を広げたいです。

407年の時を越え、心ふれあう日韓交流

▲東市来支所での歓迎会

今から四百七年前、朝鮮半島から、多くの陶工たちが薩摩をはじめ九州各地に連れて来られました。

その中で、私たちの日置市東市来町美山を永住の地とした陶工たちは、幾多の厳しい苦難に耐え、特色ある陶芸技法を受け継ぎ、鹿児島県の代表的工芸品である薩摩焼を完成させました。

平成十年十月から十一月にかけての四十日間、土と火に祈りを捧げながら陶業繁栄の礎を築いた陶工たちの労をたたえるとともに、陶工たちの父祖の地韓国との人的、文化的交流を進めていこうと『薩摩焼400年祭』が東市来町美山で盛大に開催されました。

この『薩摩焼400年祭』をきっかけに、旧東市来町と、陶工たちの故郷である韓国南原市との交流が深まり、同年から青少年国際交流事業として、小中高生の二十人を韓国南原市へ派遣、南原市の青少年との交流やホームステイを実施しています。

また、平成十三年からは日本と韓国の文化の違いを理解し、韓国の人々との交流を深めようと東市来地域の一般を対象とする二泊三日の「韓国文化体験交流」も実施しています。

▲南原市蛟龍初等学校での歓迎会

平成17年度 青少年国際交流事業

平成十年に行われた「薩摩焼400年祭」をきっかけに交流が始まった韓国南原市蛟龍初等学校との青少年国際交流事業は、これまでに五回の相互交流を続け、参加者は七十人を超えています。

日置から韓国へ

平成十七年度は八月三日から七日までの五日間、交流団十三人（団長・国分高明教育総務課長ほか引率四・小学生七・中学生一）が韓国南原市を訪問しました。今年の訪問メンバーは例年と比べて少なかったものの、事前学習会の時からチームワークが良く、国際交流員の成希哲（ソン・ヒチョル）さんの「ホームシックの心配はありません」との言葉に、家族は安心して送り出しました。

【一日目】

鹿児島空港を離陸すること九十分、韓国の仁川（インチョン）空港に到着しました。ソウル市内で夕食をとりましたが、子どもたちは初めての韓国にもかかわらず落ち着いた様子。レストランの従業員ともすっかり意気投合して一緒に記念写真まで撮りました。

【二日目】

いよいよ蛟龍初等学校に向かいます。短い事前学習会で、あいさつ程度はできるようになったものの、少しずつ子どもたちの表情が緊張していくのがわかります。

学校に到着すると、暑い日差しにもかかわらず、道路まで歓迎の人波が続きます。緊張の面持ちでバスを降りました。歓迎会の会場となった体育館では、先生やホストファミリーが集まっており、中には、これまでの相互交流で顔なじみの姿も。歓迎式の後、子どもたちはそれぞれのホームステイ先へ。心配そうに見送る団長の表情とは対照にあっけらかんとした子どもたちの表情が印象的でした。

【三日目】

子どもたちはホストファミリーと過ごしました。家族でプール遊びを楽しんだり、運動場で得意のサッカーを披露する子もいたようです。最大の心配事であった食事も「郷にいっては郷に従え」のことわざどおり、大人たちの心配をよそに、子どもたちには何の問題もなく、最高の夏休みとなったようです。もちろん、ホームシックにもなりませんでした。

【四日目】

とうとう、お世話になったホストファミリーとのお別れ式です。韓国新幹線工事に合わせて新築された南原駅に、ホストファミリーと一緒に集まってくる子どもたちは両手にたくさんの土産や荷物を抱えています。わずか二泊三日の滞在でしたが、そこには家族同様、別れがたい雰囲気が。見送る韓国の家族と見送られる日本の子どもたち、別れの時間を惜しむ光景を、南原駅はこれから何度も見続けることでしょう。

交流事業は、小さな火種から始まりましたが、今では、その炎は大きく明るくわたしたちを照らしています。蛟龍初等学校のヤンヘチュン校長先生が、交流会の席上で次のように話しました。

「子どもたちの健やかな成長は、どこの国でも親の願いです。二十一世紀を生き抜く子どもたちのために、わたしたちはこれからも交流事業の継続を願っています」

交流の根は着実と伸びています。

韓国から日置へ

八月十九日から二十一日まで、南原市蛟龍初等学校の児童十五人が日置市を訪れました。東市来支所での歓迎会の後、姉妹盟約校となっている美山小学校でも、児童のほか、地域住民の皆さんやPTA関係者が集まり、歓迎式が行われました。

韓国の子どもたちは、それぞれついた先日まで韓国を訪問し、ホームステイを体験した東市来の子どもたちの家庭にホームステイ。二泊三日の短いホームステイでしたが、日本の家族と楽しい時間を過ごし、夏休みのいい思い出になったことと思います。

勇気を出して交流

鶴丸小 5年
山口　賢宗くん

「アニョハセヨ」とあいさつしたものの、話しかけてくるホストファミリーにそれ以上言葉が続かなった。くやしかったけれど、それでも難しさで言葉は出なかった。

だまっているぼくに、辞書と身ぶり手ぶりで話しかけてくれたのはお母さんだった。ぼくも覚えたての韓国語でやっと会話ができた。寝る前、今度は六年生のナムギョさんが「カイ・バイ・ボ」と手を差し出した。韓国のジャンケンだとピンときた。ぼくも日本のジャンケンを教えた。

外国の人とふれあう時に大切なのは相手をもっと知りたい、もっと会話をしたいという気持ちだ。しかしそれだけでは通じない。それを伝えようとする勇気が何より大切だ。勇気のないぼくを、勇気を出して迎えてくれたのはナムギョさんたちだ。

ぼくの国際交流はまだ終わりではない。今度はナムギョさんが日本にやってくる。ぼくはできるかぎりの勇気でむかえたいと思う。

この体験をみんなに

美山小 6年
丸山　智丈さん

私の住む美山は歴史上、韓国とつながりがある。また毎年、韓国の小学校と交流し、ソン先生から韓国文化について学んでいたので、以前から韓国に行きたいと強く思っていた。

私の目的は韓国と日本のちがいを探すこと。ホームステイ先のキム・ボラさんの家はおばあさん、両親、お姉さんの五人家族。一緒に生活する中で、ちがいを発見した。まず、おばあさんを大切にしていること。外から帰ると必ずおばあさんにあいさつをしていた。以前、ソン先生から親を大切にする韓国の風習を学んだことを思い出した。次に食事。はしも器もすべて銀でできていた。汁物がとても辛く、茶わんを持たずに食べたり、ご飯をスプーンで食べたり、とても戸惑った。

この交流で韓国のすばらしさがわかり、人のあたたかさを感じた。この体験を私たちだけで終わらせることなく、みんなに伝えていきたい。日本と韓国がもっと近い存在になれるように。

消防だより

平成17年度 全国統一防火標語
あなたです　火のあるくらしの見はり役

11月9日～15日
秋の全国火災予防運動週間

火災時の被害・災害を未然に防止するには、日ごろから防災の重要性を十分に自覚し、自主的な防火安全活動を積極的に実施することが何よりも大切です。

火災の発生しやすい気候となるシーズンを迎えるにあたり、国民一人ひとりの防災意識を高め、火災発生を防止するため、住宅防火対策や放火火災予防対策など、積極的な運動を行います。

平成17年度 日置地区防火ポスターコンクール

次の方々が受賞者です（敬称略）。おめでとうございます。
入賞作品は火災予防運動週間中はタイヨー伊集院店に展示されます。

金賞

伊作小2年
本山　右京（吹上町）

湯田小4年
鶴田　あや（東市来町）

伊集院北中3年
岩本　夏希（伊集院町）

銀賞	和田小3年　崎向　恵	上市来小6年　久保　愛美	上市来中3年　楠生　彩乃
銅賞	川上小3年　四方田穂奈美	湯田小5年　徳永　綾乃	上市来中3年　横枕　虹
入賞	伊作小1年　外園　大貴	鶴丸小6年　碇山　杏奈	上市来中3年　東福　翔欄

消防長あいさつ

日置市消防本部
消防長　田上　規夫

今年四月に消防長を拝命しました。皆さま方には日ごろから消防行政におきまして、ご理解と温かいご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昭和五十七年に七町で構成、発足しました日置地区消防組合も、このたびの配置分合により「日置市消防本部」と名称を改め、日置市単独の消防として業務を行うことになりました。

近年は救急出場増加に加え、街区の都市化に伴う建物の大型高層化、各種危険物等の増加および生活スタイルの変化等により、あらゆる災害が複雑多様化の傾向にあります。また国内外では、地震や風水害等の自然災害により、多くの人命、財産が失われております。

消防本部としましては、日置市消防団をはじめ、関係機関との連携を保ちながら、市民の生命、財産を守るべく、地域社会に密着した防災機関として、職員一丸となって全力で取り組んでまいります。

すべての住宅に火災警報器の設置が義務付けられます!!

新築住宅　2006年6月1日から
既存住宅　2011年6月1日から

■寝室や階段は必ず設置

寝室には必ず設置しなければなりません。２階に寝室がある場合は階段にも必要になります。台所や居間にも設置をお勧めします。

■どんな種類があるの？

火災を音や音声で知らせる警報器には、煙と熱に反応するタイプがあり、電池を使うものや家庭用電源を使うものがあります。

■値段はどのくらい？

タイプによってさまざまですが、１個、５千円から１万円ぐらいで販売されているようです。

◎消防署が販売したり、あっせんすることはありません。
悪徳商法にはご注意ください。

携帯電話での119番通報

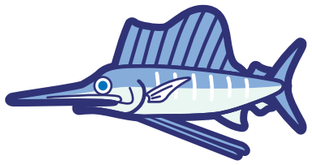
市境では、隣の消防署につながることもあります。
また移動しながらの通報は切れることがあります。

毎月9日に普通救命講習実地中!

お問い合わせは日置市消防本部　警防課まで
☎ ０９９(２７２)０１１９

『秋太郎』まるごと一匹どうぞ

ふるさと港まつり抽選会賞品贈呈式



５月３日に開催された「第13回ふるさと港まつり」の抽選会賞品の贈呈式が９月３日㈯、東市来の江口漁業協同組合でありました。この日、贈呈されたのは同漁協で水揚げされたばかりの体長約1.7㍍、重さ約30kgの新鮮な秋太郎（バショウカジキ）。当選された３人へそれぞれ贈られました。

秋太郎は、初夏から秋にかけて捕れる魚。今年は例年よりも水揚げが遅れていましたが、８月下旬から徐々に捕れ出しました。

当日は、台風が接近していたものの40本ほど水揚げされ、型も大きめ。当選者は、想像以上の大きさに驚いた様子で、どうやって調理していいか漁協職員に熱心に尋ねていました。

こけけ国王賞を受賞した東市来の松村満子さんは「港まつりには、毎年出掛けますが、賞をいただいたのは初めて。孫や近所の人にもおすそ分けします」とうれしそうに話していました。

受賞者は次のとおりです。（敬称略）

★日置市長賞
林田いま子（国分市：主婦）

★こけけ王国賞
松村満子（東市来町：主婦）

★日吉町賞
本村直人（伊集院町：小学生）

伊作田校区高齢者クラブ婦人部の「田植えハンヤ」が元気お墨付き

内閣府社会参加章

主体的に社会とかかわりを持ち、生き生きとした社会参加活動に積極的に取り組んでいる高齢者団体等を広く全国に紹介する、内閣府の社会参加章に、伊作田校区高齢者クラブ婦人部の「田植えハンヤ」による活動事例が選出され、９月30日に県庁で賞状と盾の伝達がありました。

同クラブは民謡「ハンヤ節」の曲に合わせて、田植えから脱穀までの昔ながらの農作業をこっけいな踊りで表現し、文化祭やイベント等で披露して地域を盛り上げています。今回は20年以上も続いている活動が高齢社会において、他の模範となる社会参加活動と認められ、世代間交流にもつながっていることなどが評価されました。代表の南郷明さんは「こんな大きな賞をいただけて、驚きと喜びでいっぱい。若い人や子どもたちにも教えたい」と話していました。

グランドチャンピオンは「いつこ」号

東市来地域秋季畜産品評会

９月８日、さつま日置農協畜産センターで秋の畜産品評会があり、地域内の畜産農家が育成した優秀な和牛25頭が出品されました。

厳正な審査の結果、皆田西集落の蒲牟田静香さん出品の「いつこ号」（第２部・若雌13ヶ月齢～16ヶ月齢）が、グランドチャンピオンに選ばれました。女性の審査眼向上を目指す婦人審査競技会の部では、丸牧集落の松尾三千子さんが優勝。出品された中から11頭が、鹿児島中央地区畜産品評会に出品されます。

各部門の最優秀賞は次のとおりです。（敬称略）

■第1部（13ヶ月齢未満）
最優秀賞
【１席】かすみ７の９号　鮫島　育朗◎
【２席】てるみ２号　今村　一弘◎

■第2部（13月齢～16ヶ月齢）
最優秀賞
【１席】いつこ号　蒲牟田静香◎
【２席】ゆきひめ号　鮫島　育朗◎
【３席】ななこ号　松尾三千子◎
【４席】やよい１号　西田ゆきえ◎
【５席】みどり号　下茂　國廣
【６席】しげみ２号　小重　秀高
【７席】さくら号　東福　實

■第3部（17ヶ月齢～23ヶ月齢）
最優秀賞
【１席】さちこ号　大庭　藤義◎
【２席】みさこ４号　小重　秀高◎
【３席】さやか号　下茂　國廣◎
【４席】かなえ号　園頭　國盛

■第4部（成雌牛区）
最優秀賞
【１席】のぞみ号　永山　和子◎
【２席】あやか号　蒲牟田静香◎

◎印は地区共進会出品牛

東市来中Aが第３位

薩摩半島柔道大会

８月27日、東市来海洋センターで第20回薩摩半島柔道大会が開催され、市内外から15の中学校が参加。団体Aの部では、東市来中チームが予選を接戦の末勝ち上がりましたが、決勝トーナメントで惜しくも敗れ３位。個人戦は上薗悠也君（１年生男子の部）と大石峻也君（２年生男子の部）が第３位に入りました。

道の日奉仕作業

道路がすっきり

８月10日の「道の日」に東市来建設互助会（原田竹生会長）の22社88人の皆さんが、地域内の県道沿いの草払いや空き缶拾いなどボランティア作業を行いました。この活動は日置市の美化活動に貢献したいと毎年行われているもので、草木が茂り、見通しが悪かった曲がり角もすっきりとし、視界もよくなりました。

三百人が参加して互いの活動を学びあう

キッズフェスティバル

「伊集院地域キッズフェスティバル」が九月十日、日置市中央公民館でありました。これは校区ごとの単位子ども会で開催されていた子ども会大会と活動発表会を、昨年から合同で開催しているもので、子ども会同士の友情を深めながら、活動の成果と課題を発表しあうことで、子ども会活動の充実と発展を図ろうというもの。

大会は活動発表会と育成者を対象にしたシンポジウム、レクリエーションで構成され、子ども会や育成会など約三百人が参加。ジュニアリーダークラブ「チェスト」のメンバーが実行委員会の中心となり、進行役を果たしました。

体験活動発表では、青年海外派遣事業に参加した大小田晃さん（伊集院北中二年）と、伊集院地域少年の船に参加した東はるかさん（土橋中一年）が、それぞれの体験をエピソードを交えながら報告しました。

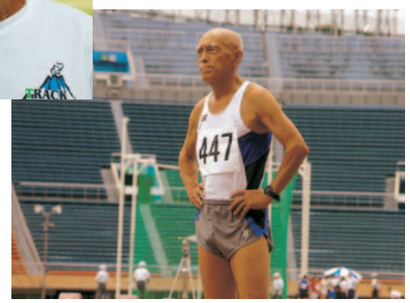
子ども会活動発表では、四郎園子ども会が「親子のふれあい」を、妙円寺五区子ども会が「活動を通して学んだこと」を、飯牟礼上中子ども会が「地域に根付いた子ども会」をテーマに、それぞれの特色を生かした活動を発表しました。中には、踊りや劇などを取り入れユニークな活動を生き生きと発表する子ども会もありました。

その後、子どもたちは広場でレクリエーション、育成者は子ども会育成会シンポジウムにと分かれて参加。シンポジウムでは瀬戸内子ども会、向江町子ども会、平古子ども会、つつじヶ丘子ども会の育成者代表者が登壇し、活発な意見交換が行われました。また中央公民館一階ロビーには、子ども会活動の写真展や作品なども展示。参加者は熱心に見入っていました。

大会を通して、子どもたちだけでなく、育成者も有意義な交流や情報交換ができ、これからの子ども会活動に生かされることが期待されます。

世界新と日本新で２冠達成

全日本マスターズ陸上



八月に大阪市であった全日本マスターズ陸上選手権で、伊集院町妙円寺の石神三郎さん（75歳）が男子75～79歳の部　走り幅跳びで4㍍83の世界新、同百㍍で13秒82の日本新記録をマークし2冠を達成しました。

中学校の体育教師をしていた石神さんが本格的に陸上を始めたのは定年後の60歳から。マスターズ陸上に出てみないかという知人の誘いに軽い気持ちで応じたのが最初。初めて出場した大会（60歳）の走り幅跳びで決勝に進出し4位に入賞。以来、記録を伸ばしたいという気持ちも強く、連続出場し、今回が16回目。走り幅跳びでは

これまで11回の優勝を数えます。

これまでの世界記録を5㌢上回る世界新は17年ぶりの記録更新という快挙。それでも「もう少し伸ばせたはず」とこれからの記録更新にも意欲を燃やします。

普段の練習は「集中できるから」ともっぱら一人で。週2回、主に吹上浜公園で練習しています。競技力を持続させるために心がけていることは「過労にならないように無理をしないこと」また瞬発力を保つために「定期的な筋力トレーニングも欠かせません」

80歳代での世界記録も視野に入れ、石神さんの挑戦はまだ終わりそうにありません。

小中学校運動会

九月十八日に中学校、二十五日に各小学校の秋季大運動会がありました。秋晴れといっても、真夏を思わせるような暑さの中、汗だくになりながら各競技に取り組み、保護者や地域の方々から声援を浴びていました。

◀日吉中学校

◀日新小学校

◀日置小学校

◀吉利小学校

◀住吉小学校

◀扇尾小学校

ホルスタイン共進会

第12回全日本ホルスタイン共進会最終予選会が9月22日、姶良郡中央家畜市場でありました。

日置市から7頭が出品され、第5部ホルスタイン種雌牛（経産牛）3歳未満の部門で、吉利の迫秀光さんの牛、チユンキー　ミツクス　キツト号が最優秀賞に輝きました。

迫さんの牛は11月に栃木県で開催される全国大会へ出品されます。

吉利体協グラウンドゴルフ大会

台風14号の影響で、時折雨の降る中、22組88人が参加しました。ホールインワンが9人、うち2人は2回記録と、レベルの高い大会となりました。結果は次のとおり。（敬称略）

【個人】優勝　冨ヶ原ムツ子　**準優勝**　上原マサ子
第3位　鶴田達志
【団体】優勝　内門A　**準優勝**　熊須B
第3位　尾之上

吹上サッカークラブ 九州制し全国へ

全国クラブチーム サッカー選手権大会 九州大会

第十二回全国クラブチームサッカー選手権大会九州大会が九月二十四日から二日間、鹿児島市のふれあいスポーツランドで行われ、鹿児島代表として出場した吹上サッカークラブが見事、初優勝を果たしました。

大会には、九州各県の予選を勝ち抜いた代表八チームが出場。吹上クラブは八月二十八日に行われた決勝戦を逆転で制し、出場権を獲得しました。

初戦、佐賀代表にFW柳原選手のハットトリックなどで7―1と快勝、翌日の準決勝へと駒を進めました。

準決勝は前半押し気味ながらなかなか得点することができません。が、サイドが変わった後半、猛攻を仕掛け、4―0で沖縄代表を退けました。

決勝は平均年齢二十一歳の大分代表と激突。「気持ちやっど」。開始直前の円陣でDF杉本選手のげきが連戦疲れのイレブンを鼓舞します。ゲームは、終始若さで攻め込む相手に守備陣が冷静に対応、無失点に抑え好機を待つと、後半十一分、FW大山選手が相手GKを巧みにかわし決勝点をねじ込みました。

終了と同時に駆けつけた百人のサポーターは万歳。伊作小校庭で地道に練習を重ねているイレブンを祝福しました。

今村監督兼選手は「応援でチームがさらに結束した」と地域の総合力を強調していました。

吹上クラブは十月二十九日から熊本で開かれる全国大会に九州代表として挑みます。

◀優勝盾を手に喜びのイレブン

▶猛然とゴールに攻め込むFW大山選手

▶市長へ優勝報告

九州に挑む

全九州わんぱく相撲大会 原口拳汰君（伊作小六年）が優勝

九月十一日、吹上浜公園相撲場で行われた第十一回全九州わんぱく相撲大会六年生の部で、伊作小の原口拳汰君が優勝しました。

「初めての優勝で取り口を覚えていない」と原口君。指導者の倉園一雄さんは「決勝も落ち着いて寄り切った」と頼もしげに話してくれました。原口君にこれからの抱負を尋ねると「中学校でも柔道と両立して続けたい」とはにかんだ笑顔で答えてくれました。

また、同大会五年生の部では上園隆太君（東市来・伊作田小）が三位となりました。

◀六年生の部を制した原口君（左）と五年生の部三位の上園君

九州地区農業大学校親善体育大会 鹿児島県立農業大学校 総合2位

九州地区内の県立農業大学校八校対抗の親善体育大会が九月二十二日、吹上浜公園などで開かれました。大会にはテニスや野球、バスケットボールなど九種目におよそ千人の学生が参加して行われ、日ごろ鍛えている種目で熱戦を繰り広げました。

吹上地域にある鹿児島県立農業大学校は、サッカー、駅伝、女子バレー、バドミントンで優勝を飾り、総合でも佐賀県に次いで二位の好成績でした。

第4期 マレーシア青年研修生帰国

1年間ありがとう

マレーシアとの国際交流の一環として受け入れている第四期青年研修生が、一年間の技術研修を終えたため九月二十二日、送別交流会が永吉地区公民館体育館でありました。交流会には受入企業の鹿児島ケースのほか、料理講習やマレーシア舞踊などで交流のあった百人を超える市民らが参加しました。

主催した吹上町マレーシア交流実行委員会は、初の女性研修生として活躍した三人の研修生シマ、マズニ、ワティを明るく楽しく送ろうと、マレーシア親善大使や舞踊教室講座生らと協力してマツケンサンバやマレーダンスを披露。

また、研修の証として市と実行委員会、鹿児島ケース連盟の修了証書が手渡されました。

研修生は「優しくしてくれてありがとう」「桜と雪が忘れられない」と涙で詰まりながら日本語でお礼や思い出を述べました。

九月九日、「正調マレーシアカレーを学ぶ」というテーマで行われた和田小学校家庭教育学級の講師として交流に参加した三人。研修の傍ら、市民とふれあいながら、様々なマレーシアの文化を教えてくれました。一年間ありがとう。

▲日本の歌で友情を確かめあった送別会

▶国際交流員と協力して料理も教えました（和田小家庭教育学級）

吹上中 吹上再発見

響きで体験！吹上の文化 (9/27)

吹上青松太鼓が講師として招かれ、太鼓演奏を披露。生徒や先生もバチさばきを教わりましたが、思い切りたたいてもびくともしない太鼓に、その奥深さを実感していました。

入来秋祭り

十五夜にわきたつ地域 (9/17)

お母さん対子どもの綱引きで開幕。十五夜相撲をメインに一夜を楽しもうと初めて企画されました。子どもの取り組みの最中、青壮年が協力して焼きソバや焼鳥をふるまっていました。

星空おはなし会

秋風の中のファンタジー

「秋の夜長をおはなしで」。ぽけっとファンタジー主催の「星空おはなし会」が九月二十三日、伊作地区公民館屋外で開かれ、百十人の家族連れが涼風の吹く星空の下で夢物語にひたりました。

わらべうた、お手玉、朗読、影絵。受け身で聞くだけのお話ではなく、身も心も参加するおはなし会。おなじみの「大きなかぶ」では朗読のあと、豚になって参加者が舞台に登場、「ぶー」だけで意思の疎通を図りながら物語と同様、大きなかぶ抜きに挑戦しました。子どもは童心に帰った親と一緒に「わぁー」「がんばれ」と声援を送っていました。

第59回県民体育大会肝属大会
やくどう県体

日置地区 総合第7位

県民体育大会が９月16日から18日まで、肝属地区２市６町を中心に開催され、真夏のような残暑が残る中、正式25、公開17の計42の競技で熱戦を展開。総合開会式ではこれまでの功績が認められ、日置市から体育功労者５人、社会体育優良団体１団体、日本スポーツ少年団表彰１人、県スポーツ少年団顕彰者２人が表彰されました。

日置地区は２市２町の選手団で構成。22の競技に277人が出場しましたが、旧松元町、郡山町が抜けた影響があったのか、成績は男女総合第７位（前年度第３位）、女子総合第７位（同３位）と振るいませんでした。

上位入賞競技及び被表彰者は次のとおりです。

上位入賞競技

優　勝	ボーリング団体戦、相撲少年の部、少林寺拳法少年女子単独演武
第２位	バドミントン、ソフトテニス男子、銃剣道、ボーリング男女総合、ソフトテニス男女総合、少林寺拳法成年男子単独演武、卓球女子
第３位	グラウンドゴルフ、柔道、ソフトテニス女子、ハンドボール女子、少林寺拳法成年男子組演武、空手道高校軽量級、剣道、弓道遠的

市内在住被表彰者（敬称略）

体育功労者	町田辰郎(東市来)　山下正見(伊集院) 東孝志(伊集院)　井上 秀二(日吉)　門田秀雄(日吉)
社会体育優良団体	吹上サッカークラブ(吹)
日本スポーツ少年団	伊作日新剣道スポーツ少年団(吹)
県スポーツ少年団顕彰	外園昭実(伊集院水泳スポーツ少年団指導者) 内村友治(吉利バレーボールスポーツ少年団指導者)

日置市の観光PR役を担い「ミスひおき」4人がデビュー

松原　智子さん

楠元えりかさん

蓑田　陽子さん

宮内佐代子さん

日置市の観光大使として、観光情報発信の最前線でPR役を担う初代「ミスひおき」が決定し、披露されました。

「ミスひおき」は、松原智子さん（日吉町）、楠元えりかさん（日吉町）、蓑田陽子さん（東市来町）、宮内佐代子さん（東市来町）の四人。

松原さんは「自分をもっと磨くために挑戦。日置市のこともっとよく知りたい」楠元さんは「今もっている介護福祉士と勉強中の幼稚園教諭の資格を将来、日置市で生かせたら。多彩な行事や美しい自然をアピールしていきたい」蓑田さんは「生まれ育った日置市が大好き。このよさを伝えていきたい。人との出会い、接するなかで成長していければ」宮内さんは「注目されるような仕事をしたかった。話すことが大好きだけど、いろんな人の話も聞きながら交流したい」と、それぞれ応募の動機を話します。

県内のミスが一堂に会してのマナー研修を終えたばかり。「ミスとして見られているということを自覚し、きれいな立ち振る舞いを心がけたい。笑顔と感謝の気持ちも忘れずに」緊張した面持ちで口をそろえます。

四人は今後、日置市観光の顔として、イベントや観光PR活動に参加。活躍が期待されます。

戸籍の窓

このコーナーに掲載を希望されない方は手続きのときに、お申し出ください。

おめでた

9月受付分（敬称略）

本庁

（出生児）松崎 千穂　今村 涼凪　崎向 李月　家村 奨　池田ひかり　宮崎 彩衣　宮崎 莉子　加治木芹奈　川野 秀斗　木之下昊優　岩本 壮真　小園 美輝　山野 美咲　岩崎 真優　寺師華菜美　岩切あんな　宮園 まゆ　川内 颯眞　山内 陽詩　福屋日向子　榎園 大輝　木下 日陽

（保護者）幸二　誠志　智彦　卓　修一　公宏　公宏　陽介　洋　義智　光太郎　正輝　真由美　裕治　史朗　成人　英樹　辰一郎　宏峰　弘海　洋信　勇喜

（自治会）向江町　善福　中福良　郡下　池田　妙円寺5区　妙円寺5区　瀬戸内　朝日ヶ丘　銀天通　妙円寺2区　野田2区　妙円寺2区　郡下　天神馬場　恋之原　徳重東　郡下　郡下　串木野市上

東市来支所

（出生児）重水 大和　東瀬戸蒼太　新村 千秋　重水 小梅　留盛 千晏　前田 大吉　菊水 愛斗

（保護者）康平　稔　清実　憲朗　慈文　信長　小百合

（自治会）麓下　坂之上下　元伊作田　杉之迫　堀内　柿之迫　中央

日吉支所

（出生児）潟山千亜希

（保護者）敬史

（自治会）新橋

吹上支所

（出生児）久保 楽花　松田龍之介　上田美海花　吉岡 鈴花　小山田 舞　坂口 大海　馬籠祐羽莉　松下 未来　黒葛 麻衣　堂園 涼雅　芝 愛結　和田 武胤　山田 優衣

（保護者）直孝　俊昭　聖治　弘司　正年　大樹　祐作　真央樹　卓也　浩之　勇樹　剛　良太

（自治会）西本町　西本町　ふもと　野首　浜田後　南宮内　永野　苙岡　上和田　北湯之元　新川原　永吉ふもと　今田

おくやみ

9月受付分（敬称略）

本庁

（故人）有川 シゲ　志摩シヅエ

（享年）93　88

（自治会）妙円寺1区　中央通　小原 フミ　山口 ミス　下野 榮造　鶴薗 優　宮下ノブエ　花田 琢磨　宮路トヨ子　宮下 利徳　徳永モチヱ　有馬 ノリ子　麻生 四郎　吉丸 ハルミ

91　87　93　76　92　79　79　89　79　85　87　86

（保護者）野田1区　吹上町松下　立野　つつじヶ丘2区　小城　東市来町荻　飯牟礼上　桑畑　郡下　朝日ヶ丘　徳重東　野田4区

東市来支所

（故人）東小薗幸夫　鍛治屋スミ　河野 貴　奥薗 直　緒方 ムメ　濵田 イワ　原口 照善　田丸 祥子

（享年）85　81　70　84　93　98　72　56

（自治会）堀内　大平　田之湯　上伊作田　秋光園　杉之迫　元養母　下養母上　西峯 悦子　西 影義　今田 フミ

56　73　88

（保護者）下養母上　立和名　下養母上

日吉支所

（故人）竹内 容子

（享年）66

（自治会）原口

吹上支所

（故人）柿元 キク　末吉マスミ　能勢 美利　奥 サダ　上谷ミツエ　中間るり子　原田 辰郎　精野マツエ　下野 貞男　上村 一弘　平峯フクエ　黒木 フミ　堀 勇雄　立山 重行

86　89　81　96　90　47　83　92　84　71　77　92　83　83

（保護者）亀原　高田　田代野　下中之里　永吉ふもと　花熟里　西本町　今田　上和田　下中之里　藤元　亀原　小野　赤仁田

▲ 今回から開票所がひとつに
（伊集院総合体育館）

衆院選投票率は 73.23%（小選挙区）

第四十四回衆議院議員総選挙と最高裁判所裁判官国民審査が九月十一日に執行されました。

今回の選挙から開票所を日置市伊集院総合体育館に統一し、即日開票の結果、小選挙区（鹿児島三区）では、宮路和明さんが当選しました。

選挙戦序盤から国民の関心が高く、小選挙区投票率は市全体で七三・二三%を記録しました。

また、期日前投票には四千七百四十三人が訪れました。

投票結果は次のとおりです。

小選挙区結果（得票順）

宮路　和明	一五、九一三
松下　忠洋	九、五三一
野間　健	五、四五四
無効票	四三五

比例代表結果（得票順）

自由民主党	一四、五七一
民主党	八、〇六九
公明党	三、七四二
社会民主党	一、六六五
国民新党	一、五三四
日本共産党	一、一八八
無効票	五六八

いきいき人（ひと）

シリーズ⑤

生活の中から生まれる魅力あふれる作品

民家とよぶには似つかわしくない趣のある庭に建つギャラリー風の家。家庭で創作活動を続ける橋口さんの自宅です。これまで十回を超える個展を開いてきましたが、ここ二回は自宅をギャラリーとしています。

二十代前半、初めて開いた個展は独自の素材を生かした型破りなブーケとコサージの創作展。最近は小学校時代から学んだ「書」を基本にした壁画やオブジェ、のれんなどの「創書」が作品の中心になっています。

「いろんなことに挑戦し、精いっぱい生きる。悔いのないように」という姿勢が創作活動の基本となり、そんな橋口さんの生きざまは、家庭においても、仕事と子育てにもしっかりと生かされ、作品にも生きる力があふれています。「一番大事なのは主人と子ども。わたしの作品は、普段の生活の人と人のつながりの中で生まれ、子どもたちに育ててもらったことも多い」個展の前には、家族の協力をもらいながら「もうこれ以上のものは」と自分の持っているものを出し切ります。

剣道を続けてきた四人の子どものうち、息子二人、娘一人は高校を卒業し、それぞれ自分の進みたい道を見つけ、海外や東京で勉強中。「自分の積んできた経験を生かし、悔いのない人生にしてほしい」正面から向き合ってきた子どもたちもしっかりと生き方を受け継いでいます。

現在、四十歳で出した作品集に続き、節目となる第二集を制作中。ご主人が仕事を一線から退いた後に、移住予定の山里での第二の人生についても夫婦で語る日々、さらなる夢・挑戦が広がります。

橋口ふよ子（はしぐち ふよこ）さん［50歳］

伊集院町猪鹿倉　（猪鹿倉自治会）

●昭和54年、独自の素材を使ったブーケ、コサージの初めての創作展を開く。以来、結婚後も子育ての傍ら、独特の作風でブーケや壁画デザイン、書を基本にした作品等の創作展は12回を数える。ご主人の経営する㈲不撓工業の事務をしながら創作活動を続ける。

わんぱく直送便

元気のあるお子さんの写真を募集しています。
市内に在住の6歳以下のお子さん
①氏名②生年月日③保護者氏名④お子さんの近況・お子さんへのコメント⑤広報へのご意見⑥連絡先を添えて、市役所総務企画部企画課（住所は末ページ）までお送りください。

本蔵　貫太（かんた）くん（1歳6ヶ月）

父 太志さん　母 梨紗さん
（伊集院町郡）

■おかあさんから

とにかく元気、ご飯もいっぱい食べます。父ちゃんの跡を継いで柔道選手になってほしい。

馬場　竜瑳（りゅうさ）くん（1歳6ヶ月）

父 学さん　母 目美さん
（伊集院町猪鹿倉）

■おかあさんから

いつまでも「はい、どうぞ」って言ってくれるやさしい竜瑳でいてね。

ゆめ&チャレンジ

『空をとびたい』

花田小学校五年　榊（さかき） 芽衣（めい）さん

何回か飛行機に乗る機会がありました。その時にお客さんのお世話をしたり、楽しそうにお客さんと話をしているキャビンアテンダントの人を見て、私もしょう来、その仕事に就きたいと思うようになりました。

キャビンアテンダントになるために、私に今できることは、勉強をしたり、たくさんの知識を身につけることだと思います。それから、英語の勉強もがんばりたいです。

そして、何よりいつでも笑顔でいることに気をつけたいです。

笑顔がさわやかでやさしくて明るい、そんなキャビンアテンダントになれるようにがんばりたいです。

私の夢は、キャビンアテンダントになることです。

私は、以前種子島に住んでいたので

ギャラリー 私の作品展

陶芸　ティカップと香炉

種子田　忠紀さん（65歳） 東市来町杉之迫

9年前、教員時代に学校にあった窯を使って、粘土をいじり焼いたのが出会い。以来、陶芸に取り組むというより、仲間とのふれあいを楽しみに陶芸に興じるという感覚で続けてきましたが、数年間、できない時期も。

昨年から公民館の陶芸教室で学び始めましたが、なかなか思うようには。特に釉薬をかけるのがうまくいきません。

ウォッチ まちの文化財 ⑤

鬼丸神社（日吉地域）

幕末に西郷らと共に活躍した小松帯刀（たてわき）は、吉利郷（日吉地域南部）の領主小松家29代当主です。鬼丸神社の祭神は、小松家の祖先禰寝（ねじめ）重長（？～1580）です。

禰寝重長の祖先初代清重は、1203年に大隅の禰寝（ねじめ）院南俣（いんみなまた）（現在の南大隅町と錦江町の一部）の地頭に任じられ、領地の地名にちなんで「禰寝」を名のりました。16代重長は、戦国時代の末に大隅地方で勢力を奮い、善政をしいたため、永く慕われたとされています。死後に、子の17代重張が祠（やしろ）を建てて鬼丸大明神と追号した、と伝えられています。1595年に、重張は吉利領主に移されたので、吉利に鬼丸神社を建立しました。南大隅町にも鬼丸神社があります。1734年に24代清香が、姓を小松に改めました。

ご神体は、重長愛用とされる「小松家の鎧（よろい）一式」（市指定文化財）と鏡です。鎧は長く吉利小学校の史蹟館に収めてありましたが、兜（かぶと）が昭和44年盗難に遭い、回収できませんでした。兜には龍の像がつけられ芸術品としても大変珍しく貴重なものであったそうです。現在は鎧一式だけが黎明館に保管されています。

〈引用参考文献〉『日吉町郷土史　上巻』

Access
本庁から車で15分
日吉支所から徒歩で20分